

公開実用新案公報

昭52—124353

⑪Int. Cl.²
F 16 C 33/46

識別記号

⑫日本分類
53 A 229

庁内整理番号
6458—31

⑬公開 昭和52年(1977)9月21日

審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑭ケージアンドローラベアリングのケージ

⑯考 案 者 多賀俊明

東京都港区高輪2丁目19番19号
日本トムソン株式会社内

⑰実 願 昭51—33608

⑱出 願 昭51(1976)3月19日

⑲出 願 人 日本トムソン株式会社

⑳考 案 者 柏原吉寛

東京都港区高輪2丁目19番19号

浜松市住吉2丁目23番25号日本
トムソン株式会社浜松営業所内

㉑代 理 人 弁理士 市川理吉

㉒実用新案登録請求の範囲

ケージ本体の窓内におけるステータ間の中間部には、ローラの外側への脱出を防止するステータ部分が、ピッチ円の外側に可及的に寄つた円周上に形成され、前記ステータ間のステータ部分の軸方向の両端部には、ローラ案内部がピッチ円の外側より内側にわたつて内厚を厚く形成され、サイドステータの内径側には、軸方向の内側に突出させて、ローラの内側への脱落を防止するローラ保持部が設けられていることを特徴とするケージアンドローラベアリングのケージ。

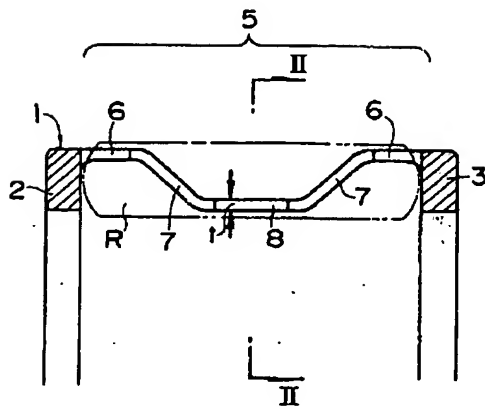
図面の簡単な説明

第1図はケージの一部の縦断側面図、第2図は第1図のII—II線断面図、第3図は第1図の平面

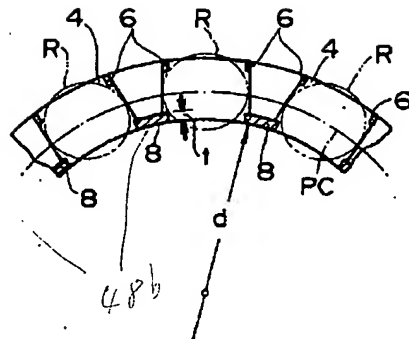
図である。第4図は本考案の第1の実施例の一部の縦断側面図、第5図は第4図のV—V線断面図、第6図は第4図の平面図である。第7図は本考案の第2の実施例の一部の縦断側面図、第8図は第3の実施例の一部の縦断側面図、第9図は第4の実施例の一部の縦断側面図である。

11……ケージ本体、12, 13……サイドステータ、14……窓、15……ステータ、16……ステータ部分、17……ローラ案内部、18……ローラ保持部、19……サイドステータの外径側、20……サイドステータの内径側、R……ローラ、L……第1のステータの幅、T……ローラ案内部の厚さ、P C……ピッチ円、D……第2のステータ部の直径、O—O'……軸方向。

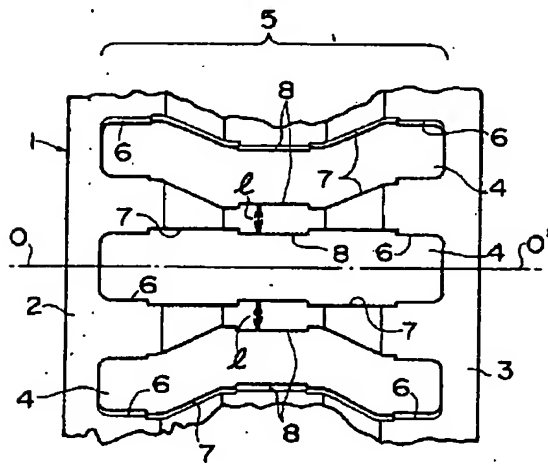
第 1 図



第 2 図

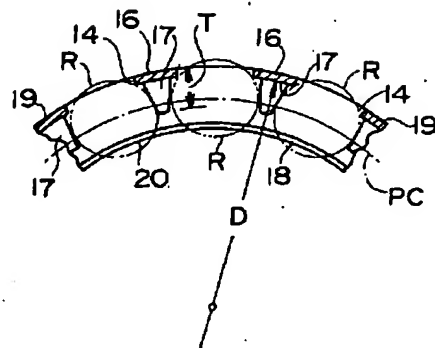
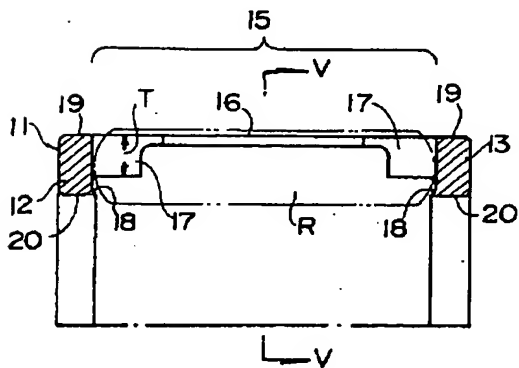


第 3 図

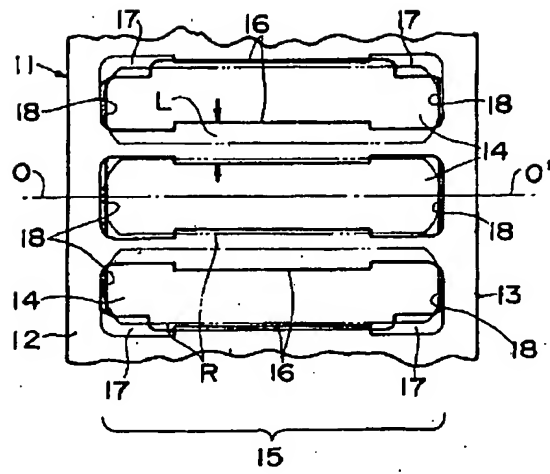


第 4 図

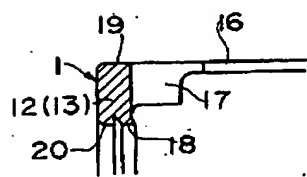
第 5 図



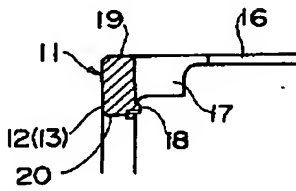
第 6 図



第 7 図



第 8 図



第 9 図

